

和洋女子大学
デジタル・データサイエンス教育プログラム
自己点検・評価報告書

2025(令和 7)年度

和洋女子大学では、2023 年度に「デジタル・データサイエンス教育プログラム」を文部科学省から認定を受けて課程を実施し、その自己点検・評価を大学・大学院評議会にて実施している。

2025(令和 7)年度の自己点検・評価結果は、以下のとおりである。

項目	点検結果	評価
履修・修得状況	・ 必須科目「AI・データサイエンス基礎（講義コード：1071、1072、1073）」 共通総合科目 履修者数：68 名 修得者数：62 名 修得率：91.1% [履修者数（学部別）] 人文学部 30 名、国際学部 2 名、家政学部 36 名、看護学部 0 名 ・ 選択科目「数理と発想（講義コード：1317）」 共通総合科目 履修者数：15 名 修得者数：15 名 修得率：100% [履修者数（学部別）] 人文学部 9 名、国際学部 1 名、家政学部 4 名、看護学部 1 名 ・ 選択科目「日本語学特殊演習Ⅰ」 日本文学文化学科専門科目 履修者数：19 名 修得者数：16 名 修得率：84.2% ・ 選択科目「心理学統計法」 心理学科専門科目 履修者数：76 名 修得者数：68 名 修得率：89.5% ・ 選択科目「観光文化と分析」 国際学部専門科目 履修者数：36 名 修得者数：34 名 修得率：94.4% ・ 選択科目「統計情報処理実習」 健康栄養学科専門科目 履修者数：134 名 修得者数：119 名 修得率：88.8% ・ 選択科目「保健医療情報学」 看護学科専門科目 履修者数：33 名 修得者数：32 名 修得率：96.9% ・ 選択科目「保健統計学」 看護学科専門科目 履修者数：88 名 修得者数：88 名 修得率：100% プログラム修了者数は 48 名となり、昨年度の 67 名と比較して減少した。	B
学修成果	プログラム科目における必須科目「AI・データサイエンス基礎」では、履修者 68 名中 62 名が単位を修得し、修得率は 91.1%であった。また、選択科目についても 84.2～100%の修得率であり、履修者の大半が単位を修得していた。 授業評価アンケートの自由記述では、「Word や Excel の活用方法が理解できた」「レポート作成や情報整理に役立った」などの意見が見られ、デジタルツールを活用する基礎的能力の向上がうかがえた。 本プログラムでは、情報活用能力、データの収集・整理・分析能力及び AI・データサイエンスの基礎的知識の修得を目的としており、各授業における単位修得状況から一定の学修成果が得られていると判断した。 一方で、現状は単位修得状況及び授業評価アンケートを中心とした評価に留まっているため、今後は学生ポートフォリオ「わよ Jam」やルーブリック評価等を活用し、学修成果の可視化及び到達度評価の充実を図る必要がある。 ※授業評価アンケート： 全授業を対象に実施(評価の対象として優位性を欠く少人数(10 人以下)の授業は除外)。 各質問項目を点数化する評価に加え、自由記述欄には項目に該当しない部分の意見や、数値で表されない質的な評価の観点も加味されている。	B

項目	点検結果	評価 (案)
授業評価アンケート等を通じた学生の 内容の理解度及び後輩等の学生 への推奨度	現在実施している授業評価アンケートでは、授業満足度や授業運営に関する項目を中心としており、本教育プログラムに関する理解度や推奨度を直接測定する項目は設定されていない。 自由記述では、「パソコン操作に対する苦手意識が軽減した」「データ活用の基礎が理解できた」「今後の学修や就職活動にも役立つ内容であった」などの意見が見られ、学生の理解促進及び学修意欲の向上につながっていることが確認された。 また、履修ガイドやオリエンテーション、学修支援システム (manaba course) を通じてプログラムの目的や意義について周知を行っている。 しかしながら、理解度及び推奨度を客観的に把握する仕組みは十分に整備されていないことから、今後は授業評価アンケート項目の見直しや学生ポートフォリオの活用等を進め、学修成果の把握及び推奨度向上に向けた検証を行う必要がある。	C
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	2025 (令和 7) 年度のプログラム履修者は延べ 468 名であり、そのうち 433 名が 1 科目以上を修得し、科目修得率は 92.5%であった。 履修率向上に向けて、履修ガイドへの掲載、オリエンテーションでの周知、教務課による履修ガイダンス及び manaba course を活用した情報発信を継続して実施した。その結果、共通総合科目で開講する対象科目については全学部から履修者を確保することができた。 また、本学では BYOD (Bring Your Own Device) を推進しており、学生が日常的に ICT 機器を活用して学ぶ環境整備を進めている。これに伴い、学生の ICT 活用能力は向上傾向にあり、「AI・データサイエンス基礎」の授業内容についても社会的要請や学生の実態に応じた見直しを継続して行っている。 一方、プログラム修了者数は前年度の 67 名から 48 名へ減少した。また、本教育プログラムの基盤となる必須科目「AI・データサイエンス基礎」の履修者数は 68 名に留まっており、現状では一部の学生の履修にとどまっている。 本学では、2028 年度改組において AI・データサイエンス教育を全学的に推進するため、「AI・データサイエンス基礎」の全学必修化を予定している。そのため、現在は移行期間として履修者拡大に向けた周知活動や教育内容の改善を進めている。 また、2026 年度から学生ポートフォリオシステム「わよ Jam」において、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (リテラシーレベル) 修了者に対してバッジを付与する機能を導入し、学修成果の可視化を開始した。今後はこれらの取組を通じて教育プログラムの認知度向上を図るとともに、2028 年度の全学必修化に向けた教育体制の整備及び質保証を進めていく。	C
プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	2025(令和 7)年度のプログラム履修者のうち、2026 年 3 月に卒業した学生は 15 名 (人文学部 8 名、家政学部 6 名、看護学部 1 名) だった。履修者は、教育・学習支援業、情報通信業、医療・福祉業、サービス業など幅広い業界へ就職している。職種としては、教員・講師、専門職 (栄養士・看護師)、事務職、営業・販売、その他となっており、どの職種においても活躍が見込まれる。 なお、IT 系企業への興味関心も年々高まり、就職を希望する学生も増えている。卒業して間もないため、企業等の評価については、確認できていない。今後、卒業時アンケートにて「就職活動において本プログラムの知識が活かされたか」を設問項目に追加することで確認していきたい。	B

項目	点検結果	評価
産業界からの視点を含めたプログラム内容・手法等への意見	2025 年度も引き続き、地域連携協議会・教学マネジメント評価委員会を開催し、市川市及び地域企業との意見交換を実施した。本学からは学長、副学長、学部長、事務局長等が参加し、包括連携協定を締結している市川市及び地域企業の関係者から、本教育プログラムに関する意見を聴取した。 委員からは、「情報リテラシーは今後の社会において不可欠な基礎的能力である」「データ活用に関する知識・技能を有する人材の需要は今後さらに高まる」などの意見が示され、数理・データサイエンス・AI 教育の重要性について理解と期待が示された。 これらの意見を踏まえ、本学では 2026 年度に設置された「和洋学園 AI 教育プロジェクトチーム」を中心に、教務委員会及び大学・大学院評議会と連携しながら、AI・データサイエンス教育の推進及び教育内容の改善を進めていく。今後は、2028 年度から予定している「AI・データサイエンス基礎」の全学必修化も見据え、産業界からの意見を教育課程の改善に反映し、教育の質向上に努めていく。	B

(評価基準)

S	目標を大幅に上回る成果を上げた
A	目標を上回る成果を上げた
B	ほぼ目標通りの成果であった
C	目標を下回る成果であった
D	目標の成果を全く上げられなかった

以上